

植松 透

NHK交響楽団首席ティンパニ奏者。東京都出身、国立音楽大学、同大学院を首席で修了。N響海外派遣研修員としてベルリンに留学、R.ゼーガースのもとで研鑽を積む。ギリシア・パトラス国際芸術祭、国際ゲーテ年記念芸術祭、軽井沢国際音楽祭、宮崎国際音楽祭など国内外の音楽祭にも多数参加。シンガポール大学ではマスタークラスを開催。ソリストとしてもN響と武満やグラスの作品等を共演、また林英哲、山下洋輔氏ら異ジャンルのアーティストとのコラボレーションも数多い。国立音楽大学、洗足学園音楽大学、札幌大谷大学にて後進の指導にもあたっている。幼児と音楽の関わりを打楽器の視点から捉える研究も長年続けており、主宰する「たいこアンサンブル・トムトム」を自らのライフワークと捉え幼稚園や特別支援学校でのコンサート活動を全国で展開、被災地の子どもたちに音楽を届ける「大友剛ミュージックキャラバン」「植松透のシャカシャカパン」、絵本読み聞かせの「室井滋の絵本ライブ」など様々な活動を通して全国の子どもたちと音楽の交流を深めている。NHK音楽祭では「こども音楽祭」をプロデュース。ピタゴラスイッチ、ムジカピッコリーノなど ETV の教育番組にも数多く出演している。

植松葉子

京都市生まれ。 国立音楽大学器楽科卒業。のちに東京芸術大学邦楽科別科にて能楽囃子を学ぶ。森田流能管を松田弘之氏に師事

国指定重要無形民俗文化財に指定されている、江戸里神楽・若山社中の囃子方を経て、現在は横笛演奏者(篠笛・能管)として様々な活動を行なっている。小平の雑木林で、毎年春と秋に行われる『月夜の幻燈会』では、音楽制作と演奏を担当しているほか、創作竹楽器パフォーマンス集団・東京楽竹団のメンバーでもある。2016年には楽竹団から、CD「竹ノオト」をリリース。デンマーク・韓国・台湾・イギリス・ドイツ・オーストリアなど海外での公演にも多く参加している。1998年から1999年にかけて、ドイツ・ベルリンに在住し、演奏活動やレクチャーを行う。2011年6月には、ベルリン RIAS 室内合唱団主催の東日本大震災チャリティーコンサートに出演した。

2019年3月に、埼玉県ときがわ町に住まいの拠点を移し、自然と対話する生活を始めている。

高梨道生 1955年1月31日東京杉並生まれ。ベーシスト。 日大芸術学部音楽学科卒業。クラシックを永島義男氏。ジャズをパーシーヒース氏、中村照夫氏、ロンカーター氏に師事。渡米し、ボストン、ニューヨークで活動。海外のミュージシャンとの交流を深める。帰国後、菅野邦彦、鈴木勲、渡辺貞夫、中村誠一、岸田恵士、マイクプライス、トミーキャンベル、We Three Trio などさまざまなグループに参加。その活動はジャズシーンにとどまらず RC サクセッション、南佳孝、小山田圭吾、カイミカリ、ミッキーカーチスなど様々なアーティストのサポートミュージシャンとしても活動。ミッキーカーチス氏とのレコーディングはレコード大賞企画賞を受賞する。現在は旧友でもあるサクソ奏者後藤輝夫率いるバンド“Fool's Paradise”の活動を中心にさまざまなミュージシャンと共演を重ねている。数々のジャズジャイアンツとの共演と交流を通して本物のジャズスピリットを継承したミュージシャンの一人である。力強いビートと暖かい音色は彼の人柄と共に多くの人を魅了している。

姜賢玉

福岡県北九州市生まれ。3歳よりヴァイオリンを始める。15歳まで篠崎英育、篠崎美樹、三木妙子の各氏に師事。10歳と15歳で全日本学生音楽コンクール福岡大会第1位。以後師事を一旦中止し医学の道へ進学。2006-2009年までエレクトロポップ・ユニット「MULTIPLE DIMENSION」で活躍。2011年に行ったコンサート「Relaxin Harbor~restart~」をきっかけとして、再びクラシック音楽に取り組むようになる。2013年より田野倉雅秋氏に師事。2016年第10回ベーテン音楽コンクール一般の部第1位。2017年第18回大阪国際コンクール弦楽器部門一般第3位(1位該当者なし)。2016年より広島で

行われている「平和と美術と音楽と」にて平和をテーマに演奏しており、2018年8月には林晶彦氏と氏の作品を共演した。2018年11月には「西念寺」にて災害復興支援コンサートを行い、念仏とコラボレーションするなど独自の演奏スタイルを追求している。現在、内科医師として勤務する傍ら広島を拠点にソロ活動、室内楽に取り組んでいる他、子供の発達支援にも取り組むなど活動は多岐に渡る。

鍵本景子（かぎもと・けいこ）

主な出演作品 NHK 朝の連続テレビ小説「ひらり」（みのり役）「さくら」（花園先生役）。映画「あの夏、いちばん静かな海」「魔女の宅急便」。舞台 「まがりかど演奏会 萩京子のタベ うたものがたり なめとこ山の熊」（大石哲史演出）。フランス演劇クレアシオン「私は太田、広島川の川～朝は、夜の闇に包まれた～」(ジャン・ポール アレーグル作、岡田正子訳・演出 旧日本銀行広島支店にて上演)。フランス演劇クレアシオン「ラ・フォンテーヌの寓話より 森の生きものたち part 3」(岡田正子演出)。朗読 橋口譲二スチルムービー「いまを生きる人を知るたび」。ラヤトン「無限の森へ」。など多数。2009年秋より年2回武蔵野の雑木林で宮澤賢治の物語を小林敏也さんの画と朗読とオリジナルの音楽で伝える月夜の幻燈会を開催（どんぐりの会主催）。これまでに11の宮澤賢治作品を上演。今秋21回目をむかえる。幻燈会の音方（植松葉子・入野智江）とともに物語を伝えるグループおほんゴギーンを結成。2017年には軽井沢国際音楽祭で「かしわばやし之夜」2019年には神保町ブックハウスカフェで「セロ弾きのゴーシュ」を上演。林の外でも幻燈会を展開中。

富田牧子（チェロ奏者） Makiko Tomita, Cellist

東京芸術大学在学中にリサイタルを行い、演奏活動を始める。イタリア、フランス、ドイツ、オーストリアの音楽祭や講習会に参加、ニューヨークでH.シャピロ氏の指導を仰ぐなど、ソロと室内楽の研鑽を積む。大学院修士課程修了後ハンガリー・ブダペストに留学、バルトーク弦楽四重奏団チェロ奏者 L.メズー氏に師事。

NHK-FM「名曲リサイタル」、ORF(オーストリア放送)の公開録音に出演。ソロリサイタルを開催するほか、弦楽四重奏団メンバーとしての活動を行う。その後ピリオド奏法への関心を深め、バロックと現代の楽器にガット(羊腸)弦を張り、様式の異なる弓を使い分けながら、様々な楽器との組み合わせによる「充実した内容の音楽を間近で味わうコンサート」の企画を続けている。J.S.バッハと20、21世紀の作品を組み合わせたサンドイッチ・コンサートも好評継続中。パーカッションのコスマス・カピッツァ氏とのデュオ《羊とヤギ》で CD

「O Terra(大地よ)」をリリース。

<http://tomitamakiko.seesaa.net>

吉原圭子 YOSHIHARA Keiko (ソプラノ)

洗足学園大学卒業。平成11年度文化庁芸術家インターンシップ研修員。二期会会員。第30回イタリア声楽コンクールにてミラノ大賞(松下賞)受賞。第19回飯塚新人音楽コンクール声楽部門にて大賞受賞。2000年から05年までイタリア、ミラノ及びフランス、パリ市立シャトレ劇場にて研鑽を積んだ。その間第1回ミネルビオ国際声楽コンクール声楽部門第1位受賞など多くの国際コンクールで入選、受賞を果たしている。

また、国内外の著名な指揮者とのオーケストラ共演も多く、NHK -FM 名曲リサイタル、題名のない音楽会等にも出演。

05年「ホフマン物語」オランピア役で新国立劇場デビュー。その後も同劇場主催「タンホイザー」牧童役、「影のない女」3役、「フィガロの結婚」バルバリーナ役、「イエヌーファ」ヤノ役、「ジークフリート」森の小鳥役、「愛の妙薬」ジャンネッタ役、びわ湖オペラ「こびと」の王女役出演の他、神奈川県民ホール開館40周年記念オペラ「金閣寺」女役、サントリーホールオペラ等多くのオペラに出演している。09年には、アジアソル制作パフォーマンス「東風～もう一つにシルクロード」韓国公演にて女優としても出演した。また宗教曲のソリストとしても多く出演の他、テレビCMにて声を披露するなど幅広く活動している。

オフィシャルウェブサイト <http://yoshihara-keiko.net>、

宮村和宏(オーボエ奏者) プロフィール

神戸生まれ。東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て2001年東京芸術大学音楽学部器楽科卒業。

1995年第3回高校生国際芸術コンクール、2000年第69回日本音楽コンクール、それぞれオーボエ部門第1位。

2001年、東京交響楽団とユーク・バウアー作曲「コンチェルト・ロマーノ」を日本初演。2008年、第19回瀬戸フィルハーモニー交響楽団定期演奏会でR. シュトラウス作曲「オーボエ協奏曲」のソリストを、また、2018年、第137回東京佼成ウインドオーケストラ定期演奏会においてオスカー・ナバッコ作曲「オーボエ協奏曲[レガシー]」のソリストを務めた。

これまでに、ソリストとして東京佼成ウインドオーケストラ、東京交響楽団、東京ゾリステン、瀬戸フィルハーモニー交響楽団、マリンスキー劇場沿岸州舞台交響楽団などと共演。

リサイタル活動も活発に行っており、主なものとしては'01年12月、'02年2月の連続デビューリサイタル「1st.バロック・古典」(石橋メモリアルホール)「2nd.近・現代」(すみだトリフォニー小ホール)、'06年12月「宮村和宏オーボエリサイタル」(王子ホール)、'08年11月「B→C」(東京オペラシティリサイタルホール)、'11年12月「宮村和宏オーボエリサイタル」(ヤマハホール)、'17年2月「宮村和宏デビュー20周年記念リサイタル」(ヤマハホール)等、それぞれ意欲的なプログラムにより好評を博した。

また、国内外のオーケストラの公演に客演首席奏者として多数参加している。

これまでに平手七重、福田由美、広田智之、高橋淳、小畑善昭、松山敦子の各氏に師事。

現在、東京佼成ウインドオーケストラオーボエ奏者、副コンサートマスターを務める傍ら、昭和音楽大学、洗足学園音楽大学で非常勤講師として、また、甲斐清和高等学校音楽科特任講師として後進の指導にも力を注いでいる。デュオまるみや、東京 ELEMENTS メンバー。Ensemble Contemporary α メンバーとして現代音楽のジャンルでも活動している。

2009年8月には1stアルバム「プロミネンス」(佼成出版社)を、2017年1月には2ndアルバム「マジック・オーボエ」(日本アコースティックレコーズ)をリリース。

「パワーアップ吹奏楽！オーボエ」執筆、「オーボエレパートリー ポピュラー&クラシック名曲集」「日本の名曲～花は咲く～」 「オーボエ スタンダード 100 曲選」等を監修(全て“ヤマハミュージックメディア”刊)、「アイネ・クライネ・ナハトムジーク, KV 525」(“風の音”刊)編曲。

使用楽器:YAMAHA H-limited Black Opal